

世界の水資源事情 4 (ライブラリー・コーナー)

著者	佐々木 茂子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	194
ページ	52-52
発行年	2011-11
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004125

世界の水資源事情(4)

佐々木茂子

「水の世紀」の一〇〇年が過ぎ、世界の水問題はより深刻化している。また、二〇一五年までに達成すべきミレニアム開発目標は、その多くが水問題の影響を受けている。

本稿では、世界の水資源の現状と管理に関して、最近刊行された文献を紹介する。

UNDPは二〇〇六年の人間開発報告書のテーマに「水」を選び、その邦訳『水危機神話を越えて』(国際協力出版会二〇〇七年)の中で水危機は貧困・不平等・水管理政策の欠陥等に起因するとし、水に対する権利が制度的に侵害されている状況を詳述し、変革の指針を提示する。マギー・ブラック、ジャネット・キング共著『水の世界地図 刻々と変化する水と世界の問題』(丸善 二〇一〇年)は、初版のデータを更新し、水に関する話題を世界地図上に展開する。そこから、水問題が深刻化する中で、改善された地域もあることが見てとれる。環境ジャーナリストのフレッド・ピアスは、『水の未来 世界

の川が干上るるとき』(日経BP出版センター 二〇〇八年)で、水をめぐる環境現場から関係者の声を伝える。著者は、水問題解決に向け、節水農業・雨水利用・氾濫の許容という方策を示し、同時に

水問題の当事者が、水需要を減らすための倫理と工夫を共有し、「再生可能な水資源」を管理することが大切であると訴える。橋本淳司著『67億人の水「争奪」から「持続可能」へ』(日本経済新聞出版社 二〇一〇年)は、日本の水源

林に対する外資の動向、水ビジネスの急拡大、中国の実態など、世界各地の危機的状況を報告し、併せて水を「持続可能な資源」として利用しようとする国や企業や市民の新たな動きを紹介する。沖大幹・吉村和就共著『水ビジネスに挑む 日本人が知らない巨大市場』(技術評論社 二〇〇九年)は、地球温暖化の水への影響、日本の上下水道施設の老朽化、海水淡水化で活躍する日本の膜技術など様々な話題について対談し、読者に

水に関する知識を提供する。また、環境アクティビストのモード・バロウは『ウォーター・ビジネス 世界の水源・水道民営化・水処理技術・ボトルウォーターをめぐる壮絶なる戦い』(作品社 二〇〇九年)の中で、公正な水の扱いを求める世界的規模の運動を取り上げる。

アジアの水事情に目を向けると、真勢徹著『アジアの風土に学ぶ』(ワイルド・ウォッチ・ジャパン 二〇〇七年)は、アジアの風土と社会を、水・土・里の視点から見直し、

第七章で、アジアの風土が生んだ「知足」の価値観について論証する。一方、砂田憲吾編著『アジアの流域水問題』(技報堂出版株式会社 二〇〇八年)は、洪水、水不足、水質汚染という典型的な水問題を抱えるアジアの八つの河川流域について、それぞれの実態を分析し、問題解決策を模索する。また先月、大洪水に見舞われたタイについては、手計太一著『タイ王国の水資源開発』(現代図書 二〇〇八年)で、チャオプラヤ川流域を中心に、水資源開発の歴史や歴代為政者達の水資源哲学を通して、タイの発展

過程を詳述する。地下水開発に関して、日本は他のアジア諸国に先駆けているが、辻和毅著『アジアの地下水』(権歌書房 二〇一〇年)は、日本、ベトナム、タイ、バングラデシュ、インドの地下水をめぐる問題について考察し、その将来にわたる有効利用のための政策を提示する。

都市域における水問題は、谷口真人・吉越昭久・金子慎治編著『アジアの都市と水環境』(古今書院 二〇一一年)が、東京、大阪、ソウル、台北、バンコク、ジャカルタ、マニラについて、その地理的特徴と発展過程、社会経済的特徴、都市域における水環境と水環境問題を分析する。

中国の水問題については、これまで多くの文献が取り上げられているが、大塚健司編著『中国の水環境保全とガバナンス』(アジア経済研究所 二〇一〇年)は、環境再生に取り組む太湖流域の、政策革新や制度実験に注目し、流域ガバナンスの視点からアプローチしたものである。統合的水資源管理は、ヨハネスブルクサミット以来、国際的な議論的であり、二〇

〇九年に開かれた第五回世界水フォーラムでも中心的な議題の一つであった。仲上健一著『水危機への戦略的適応策と統合的水管理』(技報堂出版株式会社 二〇一一年)は、その第一章で、世界水フォーラムを始めとする、これまでの水危機対応の国際的潮流を整理し、今日の水資源政策の立脚点を示す。蔵治光一郎編

『水をめぐるガバナンス 日本、アジア、中東、ヨーロッパの現場から』(東信堂 二〇〇八年)は、水問題の解決には科学技術に加え、水の新しいガバナンスの形成が不可欠であると訴える。イアン・カルター著『水の革命 森林・食糧生産・河川・流域圏の統合的管理』(築地書館 二〇〇八年)は、「青の革命」の

理念とその実践について、インド、中国、アフリカ等の事例を挙げる。最後に、中藤康俊著『水環境と地域づくり』(古今書院 二〇一〇年)は、水をめぐる「地域間関係」を環境問題の一つとして捉え、「持続可能な地域づくり」について考察する。(ささき しげこ/アジア経済研究所図書館)